

2017年

総会資料

ハカルワカル広場

(八王子市民放射能測定室)

時： 2017. 2. 4. (土)10時より

場所： ハカルワカル広場

2017年八王子市民放射能測定室「ハカルワカル広場」総会次第

司会 村松智子

10:00~11:30

1. 開会挨拶・・・西田
2. 新事務局メンバー紹介・承認・・・村松
3. 議長選出
4. 2016年度の活動報告・・・西田
5. 2016年度決算報告・・・相澤
6. 2016年度監査報告・・・小林恵美（欠席の場合は代読）
7. 質疑応答・承認
8. 2017年度活動方針案・・・鈴木
9. 2017年度予算案提案・・・相澤
10. 質疑応答・承認
11. 事務局から皆様へ、ご意見をお願いします（*）
12. 閉会挨拶・・・鈴木

11:30~12:00 意見交換・・・西田

12:00 終了予定

2017年度役員・事務局メンバー（紹介・承認）

役員 ○西田照子（代表・広報・総務担当） ○相澤武子（会計担当）

○小林恵美（会計監査）

事務局メンバー ○西田照子（代表・広報・総務担当） ○相澤武子（会計担当）

○二宮志郎（測定全般アドバイザー） ○鵜飼暁（IT担当）

○槌谷正勝（名簿担当） ○鈴木映子（イベント担当）

○金子恵子（会計担当）（事務局外）

(資料1) 2016年度活動報告(2016.1.1~2016.12.31)

1) 測定活動

1. 検体324件を測定。その全測定データの公開(ホームページに即日公開)

(参考:2012年度 1280件、2013年度 927件、2014年度 446件、2015年度 415件)

○公開シート上、インターネット上で測定データのへのコメント。単に機械が出す数値を出すにとどまらないレベルの(スペクトルを含む)データ公開。

2. 定点観測(公園、個人宅など、会員モニターによる)
3. 放射能微量洩れ監視プロジェクト・・・セシウムが凝縮され易い雨どいの下にゼオライトを置き、モニターのご協力により、1、2ヶ月に1回測定し、放射能の微量洩れを監視するプロジェクトを2015年よりスタート、継続中。(モニターは2016.12.31現在19人)

2) 啓発活動

1. 浜岡原発見学ツアーの実施・・・2016年4月17日、参加者29名。あいにくの雨天だったが中型バスを貸切り実施。現地で反対運動をされている伊藤実、眞砂子夫妻をはじめとする浜ネットの方たちと交流。現地ならではの苦勞、工夫に満ちた反対運動のお話を聞いた。防潮堤は完成していたが、活断層が敷地を走る浜岡原発は危険に満ちていると改めて実感したツアーだった。

2. たらちね(いわき放射能市民測定室たらちね)見学ツアーの実施・・・2016年11月14日(月)25名の参加で実施。被災地に位置する測定室として、子供を被ばくから守るため、生きるための測定が行われていた。食品、土壌の測定はもちろん、ストロンチウム90、トリチウム測定のためのベータ線測定、ホールボディカウンターによる検査、エコ装置による甲状腺検査など、市民測定室とは思えない数々のチャレンジがなされていた。「放射能とは共存できない」ときっぱり言われた鈴木事務局長の言葉に測定を通し、被曝から子供を守る覚悟を感じた。参加者全員が感銘を受けた見学会だった。

3. ハカルワカル映画会の実施

○第13回ハカルワカル映画会・・・2016年6月18日「真実はどこに？」をハカルワカル広場にて上映。ウラジミール・チュルトコフ監督作品 チェルノブイリ以降の子供の様々な疾患をWHOは放射能が原因だと認めていないが、その論拠がキエフ会議で行われた論争。その論争のドキュメンタリー作品。

○第14回 ハカルワカル映画会・・・2016年10月1日「ナミビアのウラン採掘ラッシュ」をアマダステーションにて上映。アフリカのナミビアのウラン採掘ラッシュの現状をマルタ・コンド監督がドキュメンタリー作品に。水質汚染などの環境被害、採掘労働者の被ばくを映像で見る。「原発は事故を起こさなくとも、ウラン採掘時から被曝労働を前提にしている」ことを生々しく伝えていた。(参加者31名)

4. お茶会特別企画

○講演会「福島原発事故の実相について」・・・2016年5月7日 アミダステーションにて開催。いわき市議・佐藤和良氏を講師に、福島事故の特に現在の状況を講演いただいた。事故の原因も究明されないまま、被災者は必要な救済を受けないまま、各地で再稼働政策がとられていることに強い違和感。県外避難者は10

万人、汚染地で暮らす福島県民は190万人。2017年3月で住宅無償提供は打ち切られる。20ミリシーベルトまでは安全と、避難区域指定の解除が行われ、帰還政策がとられている。甲状腺がんの多発、心筋梗塞による死亡率は全国一位である。講演会后、佐藤氏との交流会も持ち、私たちにできることは何かを話し合った。単なる支援者ではなく、当事者として原発反対運動を続けることが必要だろう。(参加者65名)

○ちくりん舎講演会①・・・2016年9月3日ちくりん舎青木一政さん、浜田和則さんをお迎えし、ちくりん舎の活動を講演いただいた。「子供の尿検査」、「リネン吸着プロジェクト」をテーマにゲルマニウム半導体測定器2台を駆使しての測定活動がそのまま福島支援につながっていることをお話しいたしました。(参加者30名)

○ちくりん舎講演会②・・・2016年11月5日 たまあじさいの会の中西四七生さん、下向辰法さんをお迎えし、「日の出町エコセメント化施設と、二ツ塚最終処分場」の環境汚染について、また南相馬市の汚染実態調査、蕨平除染ごみ焼却施設の危険性について講演いただきました。日の出町のごみ焼却施設の長年の環境調査が福島支援につながっていることに感銘を受けた講演会でした。(参加者20名)

5. 定例お茶会の実施(担当:二宮他)

原則、毎月第一土曜日に開催し、今年度は特別企画講演会、映画会と重なる時を除き、6回実施した。前月の測定データの復習(担当:二宮)と、テーマとレポーターを決め、テーマごとの学習を深めた。

各定例お茶会のテーマは、

- *1月16日・・・「福島帰還問題」(レポーター:鈴木)
- *3月5日・・・「デンキエラベル勉強会」(レポーター:佐々木)(参加者39名)
- *4月2日・・・「浜岡原発見学ツアーについての学習会」(レポーター:野副、鶴飼)
- *6月4日・・・「隠されてきた小さな原発事故」(レポーター:榎谷、鈴木)
- *7月2日・・・「水産物の汚染について」(レポーター:相澤)
- *12月3日・・・たらちね見学会の報告会(レポーター:参加者全員)

6. 夏休み工作教室(子供への再生エネルギー啓発活動)(佐々木、仲野担当)

「太陽熱温水器模型づくり」・・・模型を使って温水器を作りました。(参加者4名)

7. 八王子駅近くの貸しスペース8Beatでの土曜日の遅い時間の運営(午後3時~7時)

昼間の活動に参加しにくい方を対象に、午後3時~7時、駅近くでの運営を11月19日から始めました。活動内容は測定はせず、①コミュニティラジオの制作準備、②英語リソースを活用する会、です。コミュニティラジオでローカルに発信することを目標にします。より多くの方にハカルワカル広場を、測定活動を、放射能を知ってもらうための試みです。

8. 出張講演、説明会、測定会の実施。

- *館団地自治会への出張講演会・・・2016年6月26日、館町団地での出張放射能説明会実施（担当：二宮、氏家）
- *生活クラブ生協主催の測定会へ出張説明・・・2016年8月29日 昭島市の昭和公園にて測定会とその後の放射能説明会実施（担当：二宮、鈴木、金剛寺）

3) 広報・宣伝活動

1. 会報の発行 年4回維持会員に向けて郵送。測定データの報告と解説。外部からの寄稿、活動報告、「あのとき」（2011年の事故当時の新聞記事）、維持会員の声掲載。〈石井、北澤、西田担当〉
2. ホームページ（二宮、鶴飼担当）、ボランティアBBS を通して活動を案内、報告。新聞折り込み(映画会の宣伝)、市報、情報紙への映画会の案内掲載など。
3. イベント（映画会、見学ツアー）の実施。（鈴木、野副、槌谷担当）
4. フェイスブック、ツイッターに活動の広報（佐々木、相澤担当）

4) 組織運営

1. 事務局体制による運営(月1回の事務局会議開催)
2. 会計による会計事務(支払い、交通費支給、維持会員更新の案内郵送など)（担当：相澤、金子）
3. 維持会員、ボランティア拡大活動
(ボランティア登録数 26名、実際にシフトに入っている人 20名、維持会員202名 2016.12.31現在)
4. IT(ホームページ、予約・シフトカレンダー)の維持・管理
5. 名簿管理、整理など(担当:槌谷)
6. 手づくりグッズ〈マコロンなど〉、八女茶販売、その他の寄付によるグッズの販売による資金作り

5) 個人活動、他団体・グループへの支援及び交流

1. ふくはち（福島子ども支援八王子）、「まなび・つなぐ広場」の活動を支援、協力、福島からの自主避難の方の健康相談会(主催：ココカラハッピー)への協力
2. 浜岡（浜ネット）、ちくりん舎、たらちねなどの他の団体、測定室との交流、協力、支援。
3. 原発反対八王子行動（金八デモ）への協力（HPに情報掲載、電話問い合わせに対応）。
4. 放射線量測定装置（Radilog Walker）、測定器（TC300、TC200）を貸し出し、市民、他団体に協力。

2017年度ハカルワカル広場（八王子市民放射能測定室）の活動方針

1. 子どもたちを内部被ばくから守るために、ボランティアによる測定活動を続け、市民生活に役立つことをめざす。
2. 測定の結果をホームページに全て公開し、市民とシェアする。（客観的事実を知らせる）
3. 測定室独自の研究、調査のための測定活動を行う。（魚などの食品の自主測定、公園・山地の土壌測定、微量放射能洩れ監視プロジェクトを協賛者の協力を得て実施）
4. 測定活動のみならず、市民が集う場としての機能を果たす。
5. 新しい層に働きかけるため、午後の遅い時間にも運営し（駅近く貸しスペース 8Beat、午後3時~7時）、コミュニティラジオなど発信ツールの準備をする。
6. 原発、放射能の影響、再生エネルギーについての学習の場をめざす。（月1回のお茶会の開催、デンキエラベル勉強会、野外測定会の開催、映画会の開催など。他団体の見学、学習の場にもする）
7. 会報を年4回発行し、測定データ、放射能の知識などの広報活動を行う。
8. 放射能被害の元凶たる原発に反対する活動の拠点をめざす（金八デモ支援）。測定活動によって、原発被害を監視する機能も果たす。
9. 福島支援（「福島子ども支援・八王子」への協力、自主避難の方の健康相談会への協力など）を行う。
10. 他の測定室との連携をはかる。また測定室立ち上げの協力をを行う。
11. 生産者との連携を図り、また、行政に対し、放射能、原発に関する問題点を指摘し、働きかける。
12. 維持会員、ボランティア、測定依頼者との交流を深める。

八王子市民放射能測定室（ハカルワカル広場）規約 2015/2/7改訂

第1条（名称）この会は「八王子市民放射能測定室」（以下「測定室」という）という。

第2条（所在地）本測定室は、八王子市八幡町5-1-1 八中ビル2Fにおく。

第3条（目的）市民（八王子市民に限らない）、とりわけ子どもたちを放射能の内部・外部被ばくから守るため、食品などの放射能測定を行い、市民と子どもたちの未来を守ることを目的とする。また、測定値は原則として公表し、その結果を市民と共有する。

第4条（事業内容）上記の目的を達成するため、次の事業を行う。

- ① 食品などの放射能測定を行い、原則として公表する。
- ② 会報の発行・学習会の実施・情報の提供などを行う。
- ③ 必要に応じて行政や生産者などへの働きかけを行う。
- ④ その他目的を達するために必要と思われる事業を行う。

第5条（構成員）この会は、上記の目的に賛同する個人会員及び団体会員、および測定ボランティアによって構成される。

第6条（会費）会費の種別を会員・学生会員・団体会員とし、以下の額とする。

- ①会員 年1口6,000円
- ②学生会員 年1口3,000円
- ③団体会員 年1口10,000円

第7条（測定ボランティア）測定ボランティアは測定とその他運営に必要な業務を行う。また随時研修を受講し、正確な測定ができるようにする。

第8条（組織）上記の事業内容の遂行のために、次の組織を置く。

- ① [総会]本測定室の運営にかかわる方針は、年一回開催する総会で決定され、運営委員会に委嘱される。総会の議決は総会出席時の構成員の過半数をもって決定する。
- ② [運営委員会] この会の運営は、会員および測定ボランティアによって構成される運営委員会の協議により進められる。日常的運営のために事務局を置く。

第9条（役員）運営委員会には次の役員を置く。

代表（3名まで） 会計（1名以上） 会計監査（1名）

第10条（規約の変更）必要な規約の変更は総会に諮って変更できる。

第11条（臨時総会）代表の要請により臨時総会を開催できる。

付則1 この規約は2012年1月1日より施行する。

付則2 本改定版は2015年度2月7日より施行する。